

環境

物流事業における環境負荷は避けられません。いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務及びその付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO₂の排出削減等、次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。

(営業所、グループ会社が行う環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

1. 大気汚染防止、水質汚濁防止及び地球温暖化防止対策
2. 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

■ カーボンニュートラルの実現を目指して

NRSでは政府方針を前倒し、2046年創立100周年の節目にカーボンニュートラル達成を目指しています。

当面の目標である2030年電力の脱炭素化完了に向け、本年度は国内6拠点で電力契約の見直し(グリーン電力導入)を完了しました。

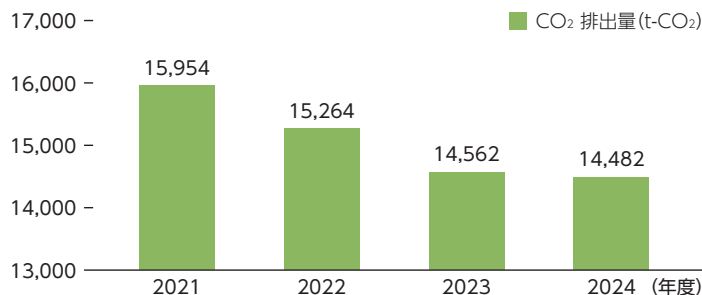
また、現状可視化推進策としてScope管理へ着手、計画的な脱炭素化を今後も継続します。

■ CO₂排出削減への取り組み

NRSグループでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO₂排出量を把握しています。

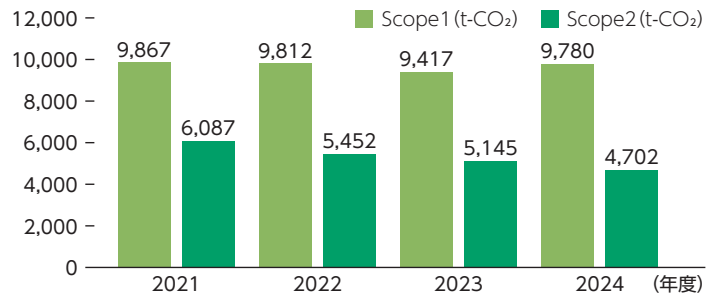
2024年度は、熊本支店の拠点増にも関わらず、2023年度比0.5%削減することができました。

今後もカーボンニュートラルを達成できるように取り組んでまいります。



Scope別CO₂排出量

NRSでは2046年のカーボンニュートラル達成に向け2019年よりScope1, Scope2の集計を行っております。直近4年でScope2（電力由来のCO₂排出量）は確実に削減しております。これからもカーボンニュートラル達成に向け様々な施策を講じてまいります。



2024年度Scope別CO₂排出量
 Scope 1 9,780 t-CO₂
 Scope 2 4,702 t-CO₂

省エネ・再エネ化推進の具体事例は下記の通りです

- 1) エコドライブの推進 : 国内トラック業8拠点でグリーン経営認証取得
- 2) 照明LED化 : 国内倉庫全拠点に設置
- 3) グリーン電力導入 : 国内事業所14拠点まで完了
- 4) 太陽光発電設置 : 国内物流センター中心に6拠点に設置、発電中
- 5) モーダルシフト : 令和5年度「モーダルシフト取り組み優良事業者賞」受賞



土気流通センターに設置した太陽光パネル

リターナブル容器による廃棄物の削減

ISOタンクコンテナ、IBC等のリターナブル容器は、洗浄して繰り返し利用可能な環境にやさしい運搬容器です。例えば、ドラム缶輸送からISOタンクコンテナ輸送に切り替えた場合、約80本分のドラム缶と、その輸送に関わるパレット等の副資材の廃棄物低減に寄与することができます。

●代替エネルギー用コンテナの開発、導入

当社は東南アジアでのLNG輸送需要に応えるため40ft 深冷液化ガス用ISOタンクコンテナを導入いたしました。輸送モードも道路輸送から鉄道輸送へ切り替えることで、輸送の効率化、CO₂の排出量削減が可能となります。今後は液化水素、液化アンモニアなどの代替エネルギー用コンテナの開発、導入を実現し環境負荷低減を行ってまいります。

●溶剤用金属製小型容器の開発

当社は半導体製造過程で使用される薬液（溶剤）用小型容器として、フッ素樹脂コーティングを施した金属製リターナブル容器の開発を行っております。業界での薬剤への品質基準が高まる中、従来容器では解決できない品質維持、安全性確保が課題となります。当社は今後も様々な種類のリターナブル容器を導入することで環境負荷低減、廃棄物の削減を行ってまいります。



●フロンの回収・リサイクル

川崎ConTechでフロン残ガスの回収処理を継続中です。回収品はリサイクルするスキームで、従来の燃料廃棄処理等に比べ省エネ省資源を実現、環境負荷軽減へ貢献しています。

環境汚染の防止

環境値管理の徹底で環境トラブル発生ゼロを継続し大気・水質の維持・改善を確実に実行しています。また、環境ISO認証取得を拡大しています。本年度は大阪及び群馬物流センター、土気流通センターで新たに認定取得しました。

